

ゴマダラカミキリに対する薬剤2系統の産卵抑制効果

アグロスリン水和剤はクビアカツヤカミキリで高い産卵抑制効果が確認されている（和歌山県うめ研究所研究成果より）ことから、同じカミキリムシ科に属し、カンキツの重要な害虫であるゴマダラカミキリに対する産卵抑制効果を検討した。

（調査方法）

交尾済みの雌に、散布7日後、散布13日後、散布21日後の3つの処理区の枝、葉をそれぞれ給餌した。

給餌日、調査日、枝の解体日は右の表のとおりである。
なお、産卵数の調査は給餌した枝を調査日に回収し、約2週間後の枝の解体日に幼虫・卵数を計数した。

	給餌日	調査日	枝の解体日
処理前	7月4日	7月7日	7月21日
1回目	7月8日	7月11日	7月25日
2回目	7月11日	7月14日	7月28日
3回目	7月14日	7月18日	7月31日
4回目	7月18日	7月22日	8月6日
5回目	7月22日	7月25日	8月8日
6回目	7月25日	7月28日	8月13日

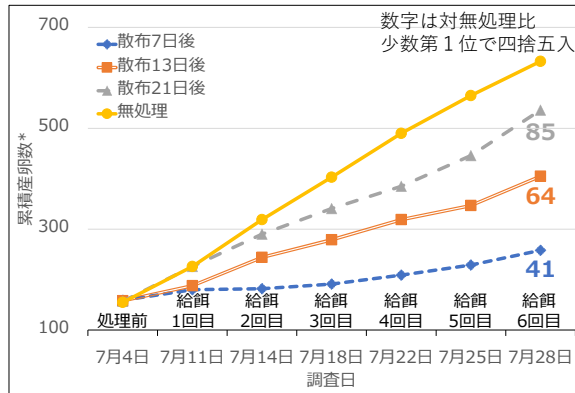
累積産卵数

両剤とも、散布7日後、散布13日後、散布21日後、無処理の順に少なかった。

死亡率

アグロスリン水和剤ではほとんど殺虫効果が見られず、エクシレルSEでは散布13日後でも殺虫効果が高かった。

アグロスリン水和剤 2,000倍



エクシレルSE 5,000倍

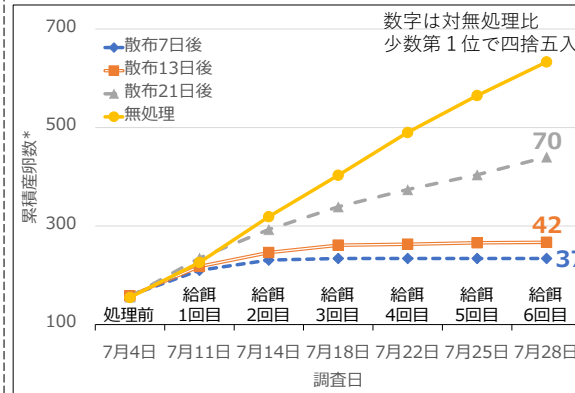


図1 薬剤処理後の枝葉給餌とゴマダラカミキリの産卵数の推移

*累積産卵数=各日の10頭当たりの産卵数の累積

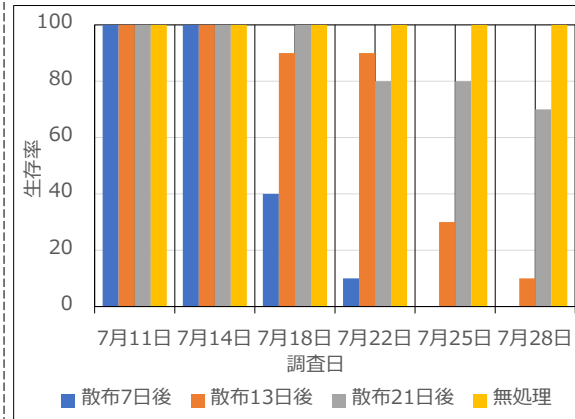
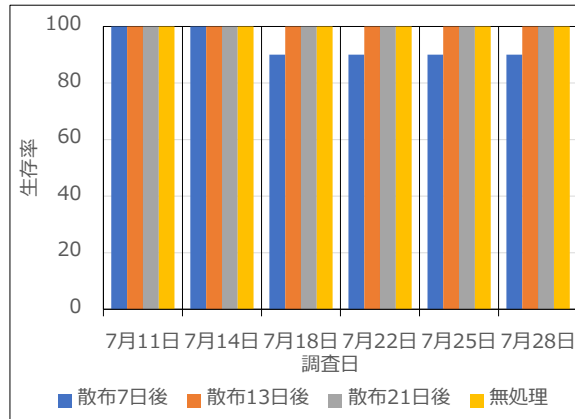
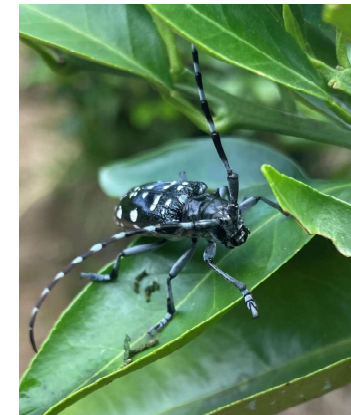


図2 薬剤処理後の枝葉給餌とゴマダラカミキリ雌成虫の生存率の推移



ゴマダラカミキリの成虫（左）及び幼虫（中）と産卵痕（右：赤丸）

今後の課題

他の薬剤についてもゴマダラカミキリに対する産卵抑制効果を検討したい。

※注意

アグロスリン水和剤は本書虫の登録はありません。